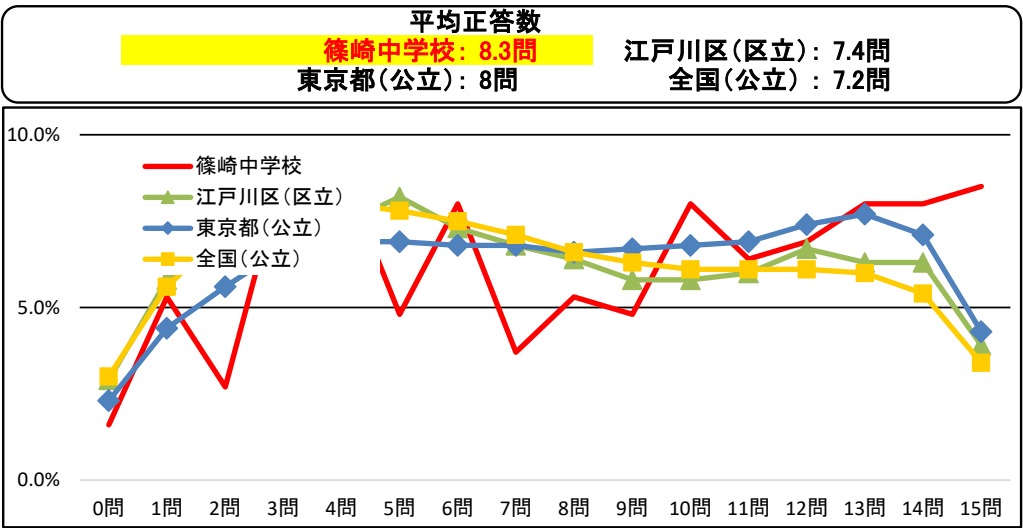


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】江戸川区立 篠崎中学校

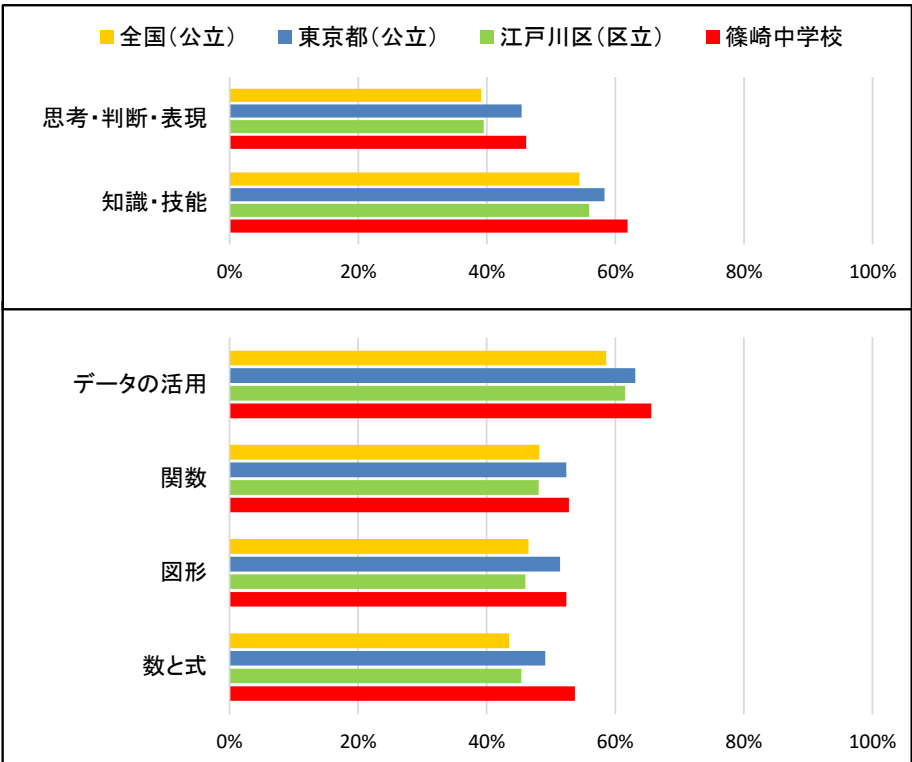
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

篠崎中学校	56%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	3.0

「領域別」の結果

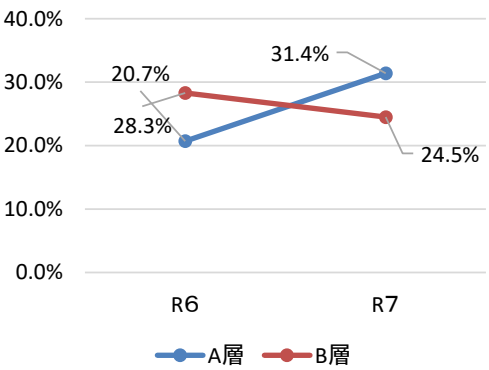


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

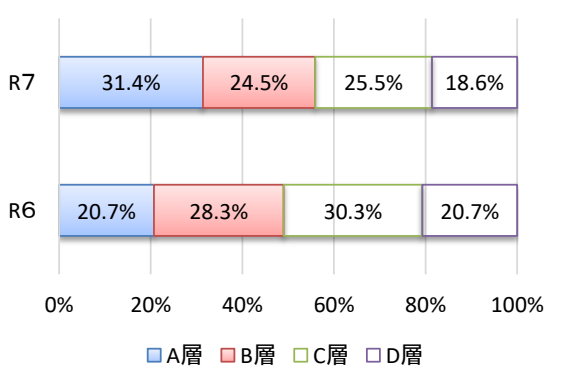
数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
篠崎中学校	31.4%	24.5%	25.5%	18.6%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

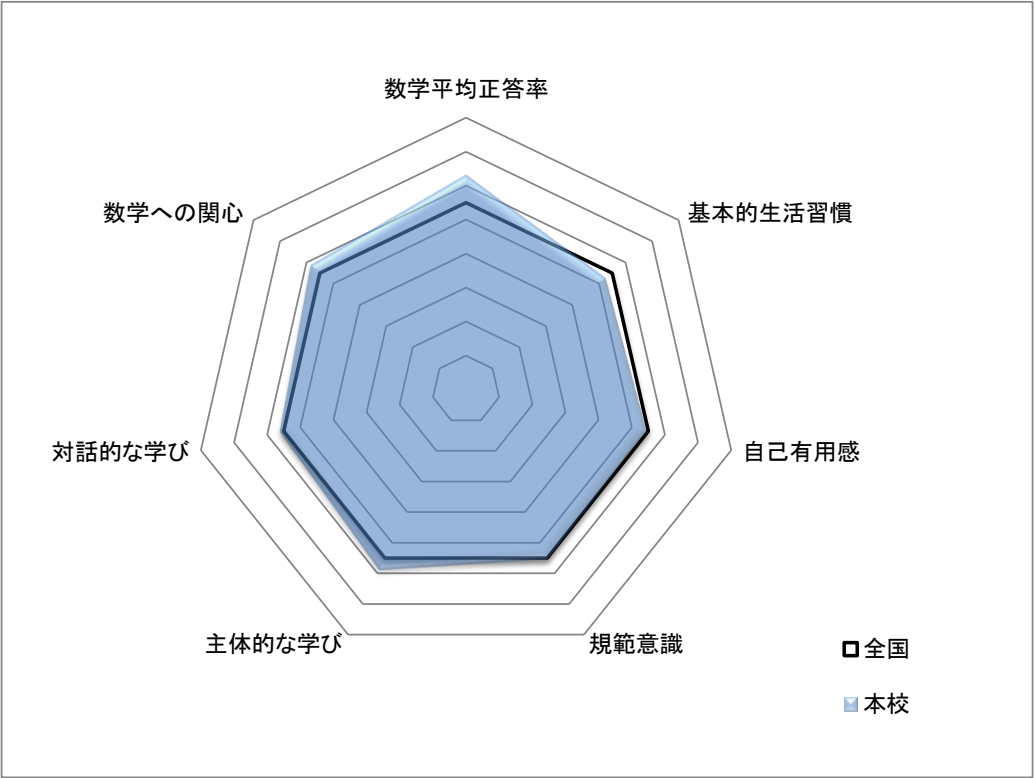
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

数学の平均正答率は全国平均を大きく上回ることができた。また、数学への関心や主体的な学びの項目に関しても、全国平均を上回ることができた。一方で基本的学習習慣の項目では、全国平均を下回ってしまった。

《家庭・地域への働きかけ》

単元テストや定期考査、実力テストの結果などを通して、生徒の学力を把握してもらい、学校と家庭が両輪となって、生徒の学力向上に努めた。また、年3回の学校公開で、生徒の学習の様子を参観してもらい、家庭や地域と連携して教育に努めた。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
AB層の合計の割合がR6は49.0%だったのに対して、R7は55.9%と6.9%増加させることができた。その中でも、A層の割合が10.7%増加させることができた。これは、日々の授業の中で、問題演習の時間の確保と、言語活動の時間の確保の両立ができた結果だと考える。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
各単元の前に、授業担当教員2人で教材研究をし、単元の見通しと、授業での要点、試験での要点を確認して毎回の授業に臨んだ。また、授業展開の中で、生徒への良いアプローチの仕方があったときには、その都度共有し、授業改善に努めた。また、各単元の終わりに単元テストを実施し、指導内容の定着度を確認し、結果を分析し指導改善のために活用した。さらに、全教員で反転学習を取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成に努めている。

・基礎学力の保障

授業規律を整備し、生徒一人一人が授業に集中して取り組める環境づくりをした。また、4人組グループ学習を積極的に活用し、言語活動の中で、教えあいが生まれ、学習の基本の理解を深らせることができた。

・学習習慣の確立

各単元の終了時に単元テストを実施し、その際にその単元の範囲のワークを提出させることで、日々の学習を復習する習慣を定着させることができた。

・AB層の育成

単元テストや定期考査を通して、基礎学力の定着度を確認させるのはもちろんのこと、日々の授業の中で、言語活動をさせることで、学習内容の本質を理解させることに努めた。また、問題演習の中で発展問題を準備し、より高いレベルに挑戦しようとする学習意欲を掻き立てることや、発展問題が解けたときに生徒を賞賛することで、自己肯定感の向上に努めた。